

博士論文の要旨および 博士論文審査結果の要旨

氏名	20D1103 馬 嫻
学位の種類	博士（経済学）
学位記番号	経済博甲第18号
学位授与の日付	2023年3月17日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
博士論文題目	中国の農村振興における農村観光の機能と課題 —広西チワン族自治区の事例を中心に— Functions and Issues of Rural Tourism in Rural Development in China —Focusing on the Case of Guangxi Zhuang Autonomous Region—
論文審査委員	主査 大島 一二 教授 副査 辻 洋一郎 教授 副査 上ノ山賢一 准教授

<博士論文の要旨>

中国の農村振興における農村観光の 機能と課題

— 広西チワン族自治区の事例を中心に —

馬 嫻

要旨

本論文では、広西チワン族自治区における「田園総合体」（一種の観光農業園、詳しくは後述）の農村観光事業の構築と課題を検証したものである。政府、農村観光産業の関連企業、組織協会、農民、消費者を対象としたアンケート、インタビュー調査に基づき、広西チワン族自治区玉林市と南寧市における実地調査の結果をもとに、具体的な農村観光の発展過程、農村観光の管理構造、さらに農民収入の変化状況、農民の経済利益の保証のあり方、観光地の魅力向上、観光客集客の維持・拡大、新顧客の獲得に関する示唆、直面する課題等について検討し、この地域の農村観光における課題を明らかにした。具体的な章別構成は以下のとおりである。

本論文は、以下の五つの章から構成される。

第一章は、中国における農村観光の発展過程と役割について、中国の農村観光産業政策を整理した。

1978年からの改革開放政策実施以来、中国の経済は高度成長を遂げた。それに伴って、国民の可処分所得も次第に増加した。経済の高度成長期以後、都市のライフスタイルは急速に変化し、これまでの「物質的な豊かさ」を追求する考え方から、「心の豊かさ」や「ゆとりのある生活」を重視する傾向が強まっている。

一方、2000年代初めに顕著化した食の安全、安心問題に起因する、農業および食品企業の安全管理システムに対する消費者の不信問題は依然として深刻であり、これは言い換えれば、都市住民の「食」への関心の深化であるともいえる。また、都市化という急速な社会変化に伴い、近年の産業発展と人口の過度な集中がもたらされ、都市住民に過重な肉体的、精神的負荷（ストレス）の深化の問題が顕在化した。とくに、近年の経済動向における景気後退、若年層の失業率の高まりなどの問題もこうした負荷に拍車をかけている。そうした都市住民にとって、農村の自然景観、伝統文化、伝統的な食文化、農家労働の体験などが注目を集めるようになっている。

1990年代に提起された鄧小平の「先富論」をできるだけ早く実現するために、中国政府は観光産業を重点発展産業に指定し、国家観光局による政策によれば、1998年に観光テーマ「華夏都市農村旅行」が策定され、農村観光年とする観光プロモーション活動が展開された。さらに国家の五カ年計画と、2010年の長期計画によれば、農村観光は最優先発展産業に掲げられ、これにより、農村観光の発展がより一層促進された。

中国の改革開放から現在に至るまでの農村観光は、四つの段階に分けることができる。第1期（1978年-1997年）は観光産業の萌芽期、第2期（1998年-2005年）は初歩勃興期、第3期（2006年-2015年）は快速増長期、第4期（2016年-現在）は高度成長期である。中国の農村観光の発展は非常に急速で、国家政策の支援に伴って、観光業を発展させる農村が中国の大地に絶えず広がり、経済発展水準の向上に伴って、農村観光の発展はさらに向上する余地があると考えられる。

第二章は、中国農村振興における農村観光の組織と課題 一広西チワン族自治区玉林市の五彩田園綜合体の事例を中心に一として展開した。

今回の現地調査は、2020年11月19日に五彩農業園において現地調査を実施した。調査の主な内容は、農村観光における企業経営の実態、農民の雇用、収益、農村観光の経営管理構造、開発の方法、政府の支援状況などに関するもので、調査対象者からのヒアリング形式で実施した。

本章で事例として取り上げる五彩農業園は、玉林市中心部から東へ約11kmに位置し、総面積108平方kmである。中心地域は12平方km、五彩農業園内には27の行政村が存在し、五彩農業園内で約8.24万人が生活している。これまで農民の大部分は農業に従業してきたが、近年では、農村観光として観光事業が拡大し、雇用も拡大している。

五彩農業園においては、特徴ある経営管理体制がとられている。玉林市政府は統一管理機関として、五彩農業園全体の日常の管理監督を実施しているが、これに茂林鎮(玉林市に属する鎮、五彩農業園本部の所在地)政府も市政府の業務に協力し、管理体制を強化している。また、玉林交通投資集団は五彩農業園の計画、開発、資金募集、宣伝などを担当し、主に経済経営面を担っている。さらに、村民委員会は住民に対して教育、監督、人材育成などを行っている。

しかし、現地の観光開発は2015年に開始されたもので、いまだ歴史は浅く、近年急速に成長を遂げた分野も多いことからいくつかの問題を抱えている。その主な問題点は以下にまとめられる。

第一に、補助金政策の弊害である。現地では、しばしば地元の特徴ある文化と融合しない、現代的な建築物が建設され、必要性の低い施設の建設が散見される。また、短期間に多くの企業が進出したことによって、効率の低い財政支出が起こり、農村景観や自然資源の破壊を招く危険も増加している。こうした現象が深化すれば、五彩農業園自体の運営にも影響を与える事態も考えられる。

第二に、集客の強い季節性と新型コロナウイルス感染拡大下での観光業の困難である。

農産物の生産は季節性が強いいため、農村観光の発展も季節の影響を強く受ける。さらに、今回の調査結果からは、2020年に新型コロナウイルスの感染が拡大したことで、観光客の激減が農村観光にも大きな影響を与えたことが明らかになった。このように、今回の停滞は、観光業がもたらすいくつかの社会的不安定問題、環境維持のコスト負担の問題等を浮き彫りにしている。

第三に、開発計画の課題である。個別企業、合作社等が多数参入するに従って、各企業等が経済的な収益を追求するあまり、無計画に農村観光施設の建設と土地利用を展開し、各部門間で調整がないまま、問題が発生し始めている。こうした状況が深刻化すれば、農業園自体の経営にも大きな損失が発生する可能性もあり、農村観光が継続できなくなることも懸念される。

第三章は、農家の視点から見た観光農業の課題について述べた。

本章における現地調査でとくに注目している点は、中国の農村観光の発展に伴って発生している農民の貧困問題の現状、農民にとって不合理な利益配分の問題、農地の利用権を失った農民の利益保障問題等の課題において、これらの問題がもたらされる要因と対策について事例分析から検討することである。そして、農民の社会保障の現状と、農民の経済利益の保証のあり方について考察することを目的とする。以上のような問題意識に基づき、現地農民を対象としたインタビューとアンケート形式で実施した。現地調査は2021年1月から5月にかけて156戸の農家を対象に実施した。

今回の新型コロナウイルス感染拡大によって、玉林市の農村観光も停滞を余儀なくされた。農民の就職機会の喪失、失業状況はますます深刻なものとなっている。とくに、玉林市出身の農外就労機会を求める農民工は、その多くが都市地域で就業できず、地元に戻還せざるを得ない状況に至っている。

この農民工支援策においては、玉林市の人力資源と社会保障局の施策として、農村観光業に関わる農民工の職業訓練が実施された。この課程の設置目的は、農民の関心の内容に基づいて実演を伴ったより良好な農業観光の現場を体験し、知識を深めるというものであった。参加費用は公費負担である。修了者はその知識、方法を自分の地域へ持ち帰って広めていくことを期待されている。

また、今回のアンケート調査結果からは、多くの農民が現在の居住環境、生活環境に満足していないことが明らかになった。回答の中で、農村観光の発展に伴い、生活環境や居住環境が悪化した点として以下の点があげられた。多かった回答として、「(観光客の増加とともに)物価が上昇した」

(28.5%) がもっとも多く、農民の収入はあまり増加しない状況で、物価が上昇している問題が明らかになった。次に、「交通機関の混雑により利用が不便になった」(20.2%)、「ゴミの増加」(19.3%)、さらに、「自然資源が損なわれた」(13.8%)、「治安が悪化した」(12.4%)などの結果であった。こうした結果は、現在の農村観光の高度成長を踏まえると、一面でやむをえない側面もあるが、次第に居住環境、生活環境の面において、大きな問題が発生しつつあることが明らかになっている。

観光開発に伴って、農地の収用が必要となった場合、農民はこれまで保有してきた農地経営権を土地委託管理合作社に委託して、その代償として補償金を受け取ることができる。

しかし、失地農民は就業後も劣悪な労働条件の職場で生活苦に悩む失地農民の増加など様々な問題が生じている。それは、失地農民の法律意識が不十分なため、就業時の権利が守られないまま、離職するケースが多いことなどによるとされている。

また、アンケート結果によると、失地農民の再就職職種については、警備員、廃棄物回収業、運輸業、建築業などの業種が主であった。そして、雇用形式は多くの場合臨時工であり、就業の安定性は低いことがわかる。こうした事情により、貧困や生活苦に悩む農民が急増することになる。

現地におけるヒアリング調査によれば、農村観光の開発方式（出資、経営方式）は、①「政府+郷鎮企業」、②「郷鎮企業+農民」、③「政府+郷村企業+農民」の3つの方式が存在している。このなかで、とくに②「郷鎮企業+農民」の、企業と農民の共同経営体制による出資、経営方式が比較的多い。

こうしたなかで、現地調査からは、利益分配方式をみると、農民は主要な利益配分対象とはなっておらず、市政府や郷鎮企業の観光収入がかなりの部分を占めていることがわかる。つまり、多くの農村観光事業の事例において、住民の経営主体としての役割は非常に限定されている状況と判断できる。

こうした状況下で、一方で観光開発により農民の生活環境、居住環境は悪化の一途をたどり、農民側からの強い不満の声が上がっている。これまでみ

てきたように、農民の主体的な地位の確立・強化は急務である。

第四章は、都市と農村の交流における農村観光の役割 ―広西チワン族自治区南寧市の事例を中心に―を述べた。

現在の中国における都市と農村との連携は新たな局面を迎えている。高度経済成長期以降、都市のライフスタイルは急速に変化し、これまでの「物質的な豊かさ」を追求する考え方から、「心の豊かさ」や「ゆとりのある生活」を重視する傾向が強まっている。こうしたなかで、現在の中国においては、都市と農村の関係に関して、依然としていくつかの社会・経済問題が大きな課題となっている。

こうした状況の下で、都市住民には、安全かつ生産過程が明確な農産物・食品の確保、都市生活のストレスからの解放、子供たちの健全な発育などを求め、農村の中での生活体験、農業体験、伝統文化、イベントとの出会いなどのニーズが広がってきていると考えられる。

この一方、中国の農村地域は、大量の若年層労働力の地域外への流失に伴い、過疎化が進行し農業の担い手不足の問題が顕在化している。さらに安価な海外からの輸入品の増加に伴って農産物価格は低迷し、山林の荒廃や耕作放棄地が増加し、農村地域の衰退が加速している。その結果、農業、農地が多面的な機能を発揮する機会は徐々に減少していると言っても過言ではないであろう。

このような状況の下で、前述した都市住民と農村住民とのニーズを結合させ、都市住民と農村住民それぞれがお互いの地域の魅力を再確認し、理解を深めるための一つの方途として、農村観光が注目を集めている。

そこで、本章では、広西チワン族自治区南寧市における「美麗南方田園綜合体」の事例を取り上げ、これまで十分に明らかにされてこなかった農村観光の社会・経済機能について検討した。この結果からは、以下の点が明らかになった。

第1に、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、観光産業に対する経済的に深刻な打撃を与えた一方で、「新しい観光方式」によるテレワークの推

進に伴い、農村観光地における「ワーケーション」の需要喚起をもたらした。

第2に、修学体験観光は、受け入れ農村地域において、副業収入の確保などの経済効果に留まらず、農村地域の少子高齢化による担い手の不足、地域の活性化などに対して社会効果があった。

第3に、都市住民がワーケーションに具体的に求める施設は不十分で、滞在生活は非常に不便である。そこで、農業園の取り組みとして、ワーケーションの必要条件であるビジネスインフラ、近隣のスーパーマーケット、土産店、病院を整備することが今後の農業園には求められると考えられる。

第4に、さまざまなニーズに対応するためには、現状の食事、民泊などの安全管理が不十分であり、内容の創意工夫の不足など、大きな課題が存在することも明らかになっている。

第五章は、農村観光の満足度を高める方策に関する研究 ―観光客を対象としたアンケート調査を中心に―を述べた。

本章では、観光客を対象としたアンケート結果を用いて、農村観光に対する観光客の認識を把握した上で、IPA分析法を通じて、観光消費行為が行われる以前の重要度と、観光消費後の満足度の相違を分析して、重要であると考えられる要素の明確化により、総合的な観点から農村観光の振興に資する要因を分析することを目的とする。この分析により、観光地の魅力向上、観光客の維持・拡大、新顧客の誘致に関する示唆を明確にしていきたい。

今回のアンケートにおいて、重要度と満足度を示す項目は、先行研究における研究成果の方法と項目を援用し、「美麗南方農業園」の農業観光地域の特徴を勘案して、計47項目の項目を立案した。その内訳は、農業園の設計に関する項目10項目、農業園の交通アクセスに関する項目6項目、観光消費と金額に関する項目7項目、購買体験に関する項目9項目、食体験に関する項目5項目、農業園の環境に関する項目5項目、その他の項目5項目である。この47項目は、重要度と満足度いずれも「1大変満足～7大変不満」などの7段階評価法で回答を求めた。

この結果からは、以下の点が明らかになった。

第1に、アクセスと購買体験の改善が非常に必要であることが示唆されている。とくに、「美麗南方農業園」の面積は広大で、徒歩では園内の回遊が難しいと考えられる。この課題への対応として、主要道路から外れた観光地へ回遊する手段としてのレンタサイクルの活用が、農業園内での効率的な観光に資するものと考えられる。

第2に、農業園の交通案内標識が訪問観光者に対して分かりやすいものではないとの結果が得られている。この課題への対応として、現在位置の正確な確認、交差点、分岐点でのドライバーの判断が必要な箇所などの正確な確認が行えるようにすることが重要となることが示唆されている。

第3に、「美麗南方農業園」の土産品の多くは、その現地の特産物等との関係が薄弱であるものが多いことが明らかになった。つまり、農業園内の土産品の多くは、現地の原材料、意匠、歴史、伝承などの特徴があまり加味されていない問題があるといえる。現在の観光客向けの土産品には、希少性、地元特有の特徴を有した商品であること、デザイン性などが求められているのである。

第4に、消費者にとって土産品を探す時間的なコストが過大であることが明らかになった。つまり、商店や施設の集積により、より効率的に土産品を探すことが可能であれば、時間的なコストの節約が可能となるのに対して、農業園内の実情としては、広大な面積の中で孤立店が散在しており、観光客には不便をもたらしているといえよう。

さいごに、全体のまとめを示す。

中国の農村観光は確かに急激な発展を遂げ、中国農村の経済発展に大きな貢献を果たしつつあるものの、しばしば地元農民の経済的な権利が脅かされ、観光客の急増による現地の環境汚染などの問題の深化が発生している。この結果、観光産業は一定の発展を見たが、現地農民の所得と生活は相変わらず低水準に留まるなど、農民自身の利益確保と、観光収益の分配をめぐる課題はより深化しているといえよう。

また、農村観光市場全体としては、新規参入地域の増加により競争が激化

しており、今後は、観光地組織と観光地を繰り返し訪問する観光客との長期的な関係性の構築が必要となっていくと考えられる。こうした状況の中で、リピーターの獲得が今後の農村観光発展のための重要な条件となっているのである。

さらに、既存研究の多くは、当時の農村観光の研究状況に基づいて分析と評価を行い、異なる発展段階の社会経済背景と研究価値の分析が相対的に不十分であり、特に新時代の農村振興戦略を背景とした農村観光の研究進展と研究方向の分析が相対的に弱いと評価できる。未来の農村観光研究では、農村地域システムの複雑性に基づき、農民の主体的地位、都市と農村の融合に焦点を当て、農村観光理論、方法、技術を絶えず革新発展させ、中国の特色ある農村観光振興発展モデルとその方途を構築すべきであると考えられる。

そのため、本研究では、現在の時代背景と研究特徴を分析し、新時代の農村振興戦と農村観光発展の需要を結合して、農村観光理論と事例研究を深化させてきた。しかし、この課題は、短期間に大きな改善を見ることが困難であることから、今後も調査研究を継続し、この問題の趨勢にさらに注目していきたい。

<博士論文審査結果の要旨>

申請者：馬 嫻

論文題目：中国の農村振興における農村観光の機能と課題

—広西チワン族自治区の事例を中心に—

学位申請の種類：甲（課程博士，経済学）

1. 論文内容の概要

本論文は、近年中国で農村振興の重要な方策として注目されている農村観光の現状と課題について、広西チワン族自治区農村における、地域行政、農家、消費者を対象とした実態調査を主要な分析手法として研究を実施したものである。

本論文の構成は以下の通りである。

序 章

1. 問題意識
2. 先行研究
3. 研究目的と研究方法
4. 研究課題

第一章 中国の農村観光政策にみる農村観光の発展と機能

1. 中国における農村観光の発展背景
2. 中国の農村観光発展と政策の変遷

第二章 中国の農村振興における農村観光の機能と課題

—広西チワン族自治区玉林市の事例を中心に—

1. はじめに
2. 調査対象地域の概要

3. 五彩農業園における農村観光の展開
4. 五彩農業園の問題点
5. まとめにかえて

第三章 中国における農民を主体とした観光開発のあり方に関する研究 —広西チワン族自治区玉林市における農家調査結果を中心に—

1. はじめに
2. 調査対象地域の観光業の特徴
3. 観光開発の進展と諸問題の発生・拡大
4. まとめにかえて

第四章 都市と農村の交流における農村観光の役割 —広西チワン族自治区南寧市の事例を中心に—

1. はじめに
2. 「田園総合体」に関する先行研究
3. 農村観光による都市・農村交流の取り組み
4. 都市と農村交流の取り組みとその実績
5. まとめにかえて

第五章 農村観光の満足度を高める方策に関する研究 —観光客を対象としたアンケート調査を中心に—

1. はじめに
2. 先行研究
3. 調査結果
4. まとめにかえて

第六章 結論と残された課題

1. 研究結果

2. 今後の課題

参考文献

2. 概評

2.1 本論文の課題

近年、中国においては、農村観光が農村振興の重要政策として注視されている。とくに、農村観光は、第1次産業(農林水産業)、第2次産業(食品加工業等)、第3次産業(農家民宿等のサービス業)の融合による経済面の効果が大きいだけでなく、農村社会、文化、都市と農村の交流などにも密接に関係した、多面的な効果が重視されているのである。

しかし、中国の農村観光は、その経済・社会的効果が大きく注目される一方で、無計画な農村観光施設の建設、農地改廃、土地利用が展開され、しばしば地元農民の経済的な権利が脅かされている問題、さらに観光客の急増によって現地の環境破壊(いわゆる観光公害)が深化する問題など、様々な課題が深刻化し、大きな社会問題となっていることも事実である。

そこで、本論文では、広西チワン族自治区において、現地の農民、観光に訪れた消費者、観光開発を担う地域行政などを対象に実施した、アンケート調査およびヒアリング調査の結果から、中国の農村観光の現状と課題について明らかにしようとするものである。

2.2 研究結果

今回の研究からは以下の点が明らかになった。

第一章では、後段の研究の前提として、中国における農村観光の発展過程、政策展開などについて、中国の農村観光関連産業政策を整理した。

第二章では、現地でのヒアリング調査に基づいて、農村観光の組織と農村振興への影響、およびその実施と効果の実態と課題を明らかにした。「田園総合体」(一種の農村観光施設)の管理は、玉林市政府と茂林鎮政府の二重

管理体制であり、機能的にみると、両政府は行政管理、政策実施、監督を担当し、投資企業は具体的な経済運営を担当している。しかし、地方行政の直接的な関与による補助金政策の弊害で、現地では、しばしば効率の悪い財政支出が行われ、地元の特徴ある文化と融合しない、必要性の低い施設の建設が進んでいる。また、企業、合作社等が短期間に多数参入したことによって、各企業等が経済的な収益を追求するあまり、無計画な農村観光施設の建設と土地利用が展開し、農村景観や自然破壊が発生しつつあることが明らかになった。

第三章では、農民を主体とした観光開発の有り方について、現地農民を対象としたアンケートが実施され、検討がなされた。ここでは、多くの観光施設の建設が、急激かつ無計画に進められることによって、現地住民の生活環境の悪化が招来されたことが明らかになった。とくに、観光開発に伴って、農民からの農地収用を急速に進めたことによって、満足な補償金を受けられないまま多くの農民が農地利用権を失い、生活苦に悩む失地農民が急増している問題は深刻である。このように、利益分配からみると、農民は主要な利益配分対象とはなっておらず、市政府や郷鎮企業の観光収入がかなりの部分を占めていることがわかった。

第四章は、都市と農村の交流に対する農村観光の展開方向についての検討であった。新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、観光産業に対する経済的な打撃を与える一方で、テレワークの推進、「ワーケーション」の需要喚起をもたらした。しかし、調査対象地の施設は不十分であり、今後、ビジネスインフラ、生活インフラ等の整備が必要である。あわせて、現状の農家民宿には安全管理上の問題、内容の創意工夫の必要性など、大きな課題が存在することも明らかになった。

第五章では、消費者の視点から見た農村観光の満足度の検討を、観光農園訪問者を対象としたアンケート調査に基づいて行った。ここでは、とくに農園へのアクセス方法と購買施設の改善の必要性が示唆された。

このように、中国の農村観光は、地域開発の重要な方途であり、都市と農

村の交流を促進するなど、いくつか興味深いとりくみが見られるものの、また直面する課題も多いことが明確になった。とくに、現地農民の経済的利益が過小評価され、往々にして農地を失ったことによる貧困問題の発生など、観光開発による経済・環境上の大きな課題が発生している点は、深刻な問題であり、本研究の重要な指摘であると考えられる。

しかし、本論文の研究結果は、今回の限定された調査対象地域における調査結果から導き出されたものであり、中国全土における農村観光の展開という大きな問題に、どの程度適用できるものなのかについては、今後さらなる検討が必要であろう。

3. 結論

ここまで述べてきたように、学位申請者・馬嬢氏の本論文は、経済学分野において研究者として研究活動を行うに必要な研究能力とその基礎となる学識を示すに足るものと判断できる。なお、本論文の主要部分はすでに『桃山学院大学経済経営論集』に4編掲載され公表されている。

○「中国の農村振興における農村観光の機能と課題：広西チワン族自治区玉林市の事例を中心に」『桃山学院大学経済経営論集』63(2), pp 1-15, 2021-10-26。

○「中国における農民を主体とした観光開発のあり方に関する研究：広西チワン族自治区玉林市における農家調査結果を中心に」『桃山学院大学経済経営論集』63(3), pp 65-80, 2022-01-20。

○「農村観光の満足度を高める方策に関する研究：観光客を対象としたアンケート調査を中心に」『桃山学院大学経済経営論集』64(3), pp 1-16。

○「都市と農村の交流における農村観光の役割：広西チワン族自治区南寧市の事例を中心に」『桃山学院大学経済経営論集』64(4), pp 335-352。

学位規定に定める最終試験に関しては、その定めに基づいて口頭試問を行った（2023年2月1日）。そこで、同氏の研究成果および外国語能力が上記の判断と齟齬がないことを確認し、合格と判定した。

以上の結果から、学位申請者・馬嬢氏は博士（経済学）の学位を授与される資格を有するものと認める。

2023（令和5）年3月17日

審査委員	主査	大 島 一 二
審査委員	副査	辻 洋一郎
審査委員	副査	上ノ山 賢 一